

ドイツとEU

独日文化交流育英会 副会長 亀山剛生

9月に行われた連邦議会選挙で、メルケル首相率いる連立与党は議席を大きく減らした。

徹底した反ナチス・反人種差別

かつて覇権争いを繰り返してきたヨーロッパは第二次世界大戦における経験から多くのことを学び、特に敗戦という終結に至ったドイツは、灰燼に帰した国土を建て直すために大きな犠牲と努力を払うことになった。さらに、ドイツの苦労は単に国土の再建・経済の再興といった通常の敗戦国に課せられる負担だけではなかった。というのはこの大戦では、それ以前の戦争史において繰り返されてきた争いとは別次元の要素、つまりナチス政権による「ユダヤ人問題の最終的解決策」と称するホロコーストが行われたことで、これはドイツ人が恐らくほぼ未来永劫まで背負っていかねばならない十字架を課せられることになった史実である。そこで戦後の新生ドイツが選んだ道が、徹底した反ナチス思想、反人種差別政策であった。少しでもナチスを許容する言動があれば、即座に叩かれるのである。「ナチスの手法を見習えば良い……」とか、「ナチス政権が行ったことにも、中には良いこともあった」とか、一部でも肯定的に発言することは非常なリスクを伴う。ましてや、ある政治家をしてヒトラーに例えることは、その人物に対する最大の侮辱となる。中には「エッ！ そんなことまで!？」と思われるかもしれないが、ナチス思想とは全く関係のない所作、例えば、学校の授業中に生徒たちが挙手

するときも、日本で一般的に見られるような挙手はかつてのナチス式敬礼に似ているということでダメ。ドイツの子どもたちは挙手する際は必ず人差し指を立てて行うように指導されている。ナチス党のシンボルマークであるカギ十字(ハーケンクロイツ)はもちろんのこと、それを連想させるようなデザインを使用することも禁止されている。

転換を強いられる難民政策

このような環境にあって、戦後のドイツがたとえ政権交代があっても徹底して貫いているのが「ヨーロッパの一員としてのドイツ」「ヨーロッパと共に」という政策である。ただし最近では、ここ数年来のメルケル政権による難民政策があまりにも無秩序でいわばカム・カム・エブリバディ式ではないかとの批判から、新興右翼政党ドイツのための選択肢(AfD)の支持率が高まる傾向にある。一方、当のAfDは、一般的な極右政党と混同されることを極力嫌い、「世俗主義国家であるべきドイツがイスラム化されてはならない」と訴えるとともに、「ドイツが主権国家・国民国家としてEUよりも強い権限を保持していかねばなら

ドイツ連邦議会選挙結果

政党	2013年		今回		増減	
	得票率(%)	議席数	得票率(%)	議席数	得票率(%)	議席数
CDU/CSU	41.6	311	33.0	246	▲ 8.6	▲ 65
ドイツ社会民主党 (SPD)	25.7	192	20.5	153	▲ 5.2	▲ 39
ドイツのための選択肢 (AfD)	4.7	0	12.6	94	▲ 7.9	94
自由民主党 (FDP)	4.7	0	10.7	80	6.0	80
左派党	8.6	64	9.2	69	0.6	5
同盟 90 (B90)/緑の党	8.4	63	8.9	67	0.5	4
その他	6.2	0	5.0	0	▲ 1.2	0

※得票率が5%以上ないと議席は得られない
 定数は選挙ごとに変動
 出所：各種報道を元に編集部作成